



### ◆南丹市の概要

南丹市は、京都府のほぼ中央部に位置し、北は福井県と滋賀県、南は兵庫県と大阪府、西は綾部市、京丹波町、東は京都市、亀岡市に隣接しています。

本市は、平成18年に北桑田郡美山町と船井郡園部町、八木町、日吉町の4つの町が合併し、誕生した市で、面積は616.31km<sup>2</sup>（京都府の13.4%）と京都市に次ぐ広大な面積を有しています。

緑豊かな自然に恵まれた地域で大半を丹波山地が占め、北部を由良川が、中・南部を桂川水系の大堰川が流れ、四季の彩りに満ちた美しい清流とその水源をかん養する**森**、大自然に育まれた京野菜や乳製品など農林産物の恵みをもたらす**里山**など、豊かな自然と風土が息づいており、ふるさとの原風景を色濃く残す「美山かやぶきの里」などは、全国的な知名度で、府内外や近隣諸国からも多くの方にお越しいただいているところです。

一方で都市圏近郊の好条件を活かし、道路網や交通網など利便性を一層高めている園部、八木、日吉地域では、個性あふれる多くの大学等が立地し、現在では約3,700名余の学生が行き交う**街**となっており、広大な市域の中で異なる様々な顔を持っています。

### ◆国保事業の現況

平成25年度末における南丹市国民健康保険の被保険者数は、8,893人と同年4月1日付の市の人口33,610人の26.5%となっております。

また世帯数では、5,062世帯と市全体13,892世帯の36.4%となっており、経年でみると被保険者数、世帯数ともに年々減少の傾向にありますが、加入者に占める前期高齢者の割合は、39.1%と年々増加の傾向にあり、高齢化の進展が浮き彫りとなっております。

### <南丹市国保被保険者数等の動向>

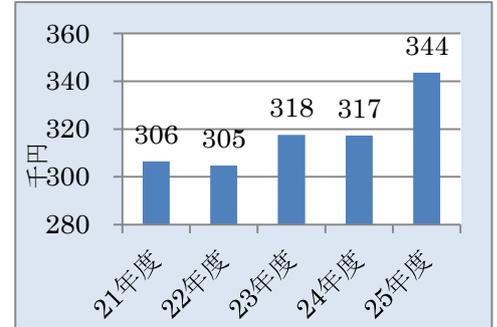
年度(平成)	23年度		24年度		25年度	
	被保険者数(人)	世帯数	被保険者数(人)	世帯数	被保険者数(人)	世帯数
南丹市国保	9,101	5,136	8,931	5,079	8,732	5,062
南丹市全体	34,146	13,615	33,987	13,761	33,610	13,892
加入率(%)	26.6%	37.7%	26.3%	36.9%	26.0%	36.4%
前期高齢者の割合	35.0%		36.4%		39.1%	

南丹市においては、被保険者数が減少している反面、医療費は、高齢化の進展や医療の高度化等の要因により、増加の傾向にあります。特に平成25年度においては、これまで32万円以下で推移していた一人当たりの医療費が、34万4千円と2万円以上（8%）の伸びを示しています。

＜医療費の推移＞

単位：千円 <一人当たり医療費の推移＞

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
費用額	2,866,616	2,807,702	2,890,353	2,833,499	3,000,015
療養給付費	2,800,607	2,738,700	2,826,383	2,771,115	2,940,205
療養費	66,009	69,002	63,970	62,384	59,810



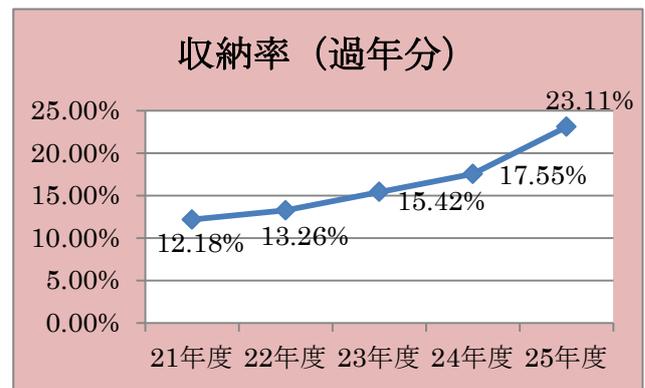
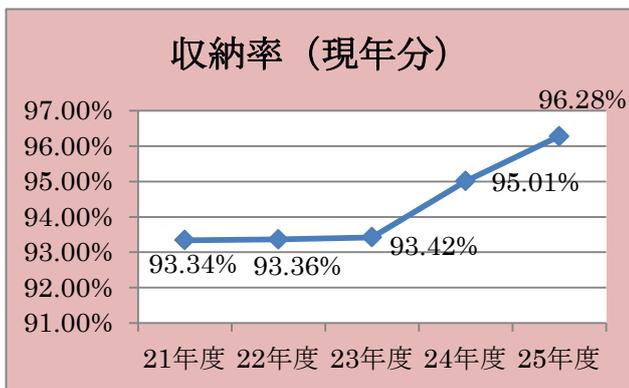
◆国保税収納率向上の取組

南丹市では、平成19年度より徴収嘱託職員3名を雇用し、滞納者との納付相談や納付指導、また、夜間の臨戸訪問等のきめ細やかな対応を行ってきました。また、未納者には、短期証を発行し、納付相談の機会を確保するとともに、財産調査等を実施し、執行停止や差し押さえ等、適切に滞納処分を実施する中で被保険者間の公平性の確保に努めてきました。

結果として、収納率は、現年分、過年分とも、毎年、わずかながらではありますが前年度を上回る数値となっており、一定の成果が現れてきているものと思われます。

平成26年度からは、滞納繰越分について京都地方税機構に移管を行い、より一層の収納率の向上に努め、国保の健全運営、また被保険者の皆様の信頼確保につなげたいと考えています。

＜収納率の推移＞



◆医療費適正化の取組

南丹市では、平成23、24年度の2カ年に亘り、国保ヘルスアップ事業を活用した「糖尿病重症化予防事業」を実施しました。本市においては、以前から糖尿病における受診率や医療費が常に上位であり、また、腎不全等による人工透析等に係る医療費も非常に大きく、国保の財政面からみても、その重症化予防や発症予防が課題となっていました。

そのような中、南丹市を含む南丹医療圏で、この「糖尿病」における受療率が府下の平均と比較して約2.6倍にも昇っているとの情報を得、京都府の指導のもと、圏域の2市1町（亀岡市・南丹市・京丹波町）が共同して「南丹医療圏糖尿病重症化予防事業」として実施することになりました。

事業の目的としては、糖尿病の患者が主治医等との連携のもと、「重症化予防プログラム」に基づいて患者自身で体調管理を行い、生活の質を高めることにより、透析への移行や合併症の発症、重症化の予防・遅延を図るといったもので、セルフマネジメントへの誘導を目的としています。

この事業での主な取組は、糖尿病性腎症第2期及び3期の通院患者に対して、広島大学で開発され、広島県の呉市が採用した「糖尿病重症化予防プログラム」を用いて、専門の教育を受けた看護師等が、食事や運動指導、電話相談など12カ月のプログラムを実施するというもので、圏域内では2カ年で64名が参加され、うち南丹市では、24名の方に参加をいただきました。

参加者の方々からは好評で、事後の調査では、生理学的な指標や自己効力感等で維持または改善されており、一定の成果が現れてきているものと思われれます。今後もアンケート調査や追跡調査を実施する中で事業の効果検証を行っていきたくと考えています。

## 糖尿病重症化予防プログラム

～看護師による支援プログラムのご案内～

参加費用  
無料



糖尿病重症化予防プログラムは、今の日常生活を尊重しながら、ご自身の力で、より健康な日常生活を送っていただくための支援を行うものです。

このご案内は、〇〇市(町)国民健康保険の加入者で、糖尿病や糖尿病性腎症の治療をされている方のうち、プログラムへの参加が必要であると判断された方にお渡ししております。

あなたのかかりつけ医の方針に基づいて、糖尿病や糖尿病性腎症の重症化予防の専門的な知識を持つスタッフ(看護師)が、面談や電話などで食事や活動(運動)等に関する保健指導を行います。

この機会に、ぜひ、糖尿病重症化予防プログラムにご参加ください。

この事業は、〇〇市(町)が府県ととも、被保険者の健康の保持・増進、生活の質の向上を目的に、厚生労働省の「国民ヘルスアップ事業」を活用して行われるものです。  
地域における糖尿病重症化予防をモデル的に推進し、その事業結果を評価した上で、効果的なプログラムの開発を行い、府民の健康のための一層の取組を検討することとしています。

### お体の状態に関する大切なお知らせ

—お早めに医療機関を受診しましょう—

あなたが受診された特定健診において、異常値が確認されました。検査の結果、あなたは**高血糖状態**にあるため、**糖尿病**が疑われます。  
ご自身の健康を守るため、**早期受診が大切です**。お早めに医療機関を受診されることをお勧めいたします。  
なお、この通知と行き違いで受診されている際はご容赦ください。



このお知らせは、〇〇市(町)加入者の各種が受診された特定健診の結果を基に〇〇が作成したものです。

#### 「糖尿病」について

糖尿病は、「高血糖」状態が続くことにより発症する病気です。

#### 高血糖とは?

【インスリン】というホルモンが不足し、血液中のブドウ糖濃度(血糖値)が高くなることをいいます。

インスリンの不足

ブドウ糖の蓄積

血糖値の増大

糖尿病

長年にわたって高血糖が続くと、**腎臓の機能が低下**します。



お問い合わせ先

〇〇市(町)〇〇課〇〇係  
TEL:0000-00-0000 FAX:0000-00-0000

本事業の中では、さらにもう一つの取組を行いました。

具体的には、特定健診データから糖尿病が疑われるけれども、医療機関を受診された形跡のない方を直近のレセプトデータから抽出し、担当の保健師が訪問や電話勧奨により受診勧奨を行うといったもので、南丹市では、2カ年で該当者31名に対し受診勧奨を行ったところ、約半数の15名が受診に繋がりました。この取組については、現在も継続して実施しており、今後の効果に期待しているところです。

このような取組を2カ年に亘って実施したところですが、事業の性質上、参加者と担当看護師等とのマンツーマンの実施であり、実際「自分だけが頑張っているのではないか?」とか「他の参加者の声も聞きたい」などの意見がありました。

そこで、それらの声を反映すべく、医療圏全体で協議し、参加者相互の情報交換や交流の場として、参加者の家族も交えた中で「DMフレンズの会」なるものを発足しました。

会では、会報誌の発行や研修交流会、また、広島県の糖尿病患者会から講師を招き、低たんぱく食の調理実習などを行い、参加者の皆様からは「今後も続けて欲しい」との声もいただいたところです。

医療圏においてのこれら一連の事業は、平成24年度で一旦終了しましたが、南丹市では、25年度以降もこの「DMフレンズの会」は継続して実施しており、運動教室や調理実習などを取り混ぜながら参加者の皆様の健康維持・増進のための支援を行っています。



DMフレンズの会